

スズメバチに気をつけよう

スズメバチの活動がいよいよ活発になってきました。

今年は高温・少雨で発生数が増えている可能性があります。



図1 スズメバチ

刺されると、ショック症状が発生したり、刺されなかったとしても、高所作業時の落下事故や機械作業時の誤動作などの原因になったり大変危険です。

1 スズメバチの特徴

- ・道内には14種類ものスズメバチが生息
- ・攻撃性が特に高いのは8～9月
- ・最高気温が15℃を下回る10月中旬頃までスズメバチの活動は続く
- ・行動範囲は通常1～2 kmだが、エサが無くなると移動距離が拡大する
- ・スズメバチが特に警戒する範囲は巣から数m～10 m (種類と場所による)
- ・巣の近くで聞こえる大きな音や振動に対して敏感に反応し攻撃的になる

2 発見したらゆっくり距離をとる

巣を作る場所は、主に防風林や庭木などの木の周り、建屋の周り、排根線(切った木や切り株を集積した場所)の周りです。

それらの周囲で作業するときは、飛び交うハチがいまいか確認します。もし、身体の周りをスズメバチが飛び始め、スズメバチが何度も往復したら近くに巣がある可能性があります。危険なサインなので、ゆっくり離れて距離をおきます。巣に近づかないことが一番です。

叩き落そうとしたり、走って逃げようとしたりするとハチを刺激して、攻撃される危険性が高くなります。

スズメバチの攻撃パターンは左のように言われています。

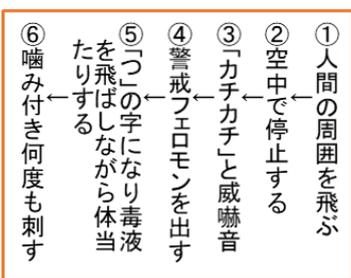


図2 攻撃パターン

③までの段階で気づけば距離をとることができます。スズメバチに刺される箇所は7割

が上半身です。草刈り作業では、特に横に素早く動かす手や腕に被害が集中します。肌の露出を避け、スズメバチを興奮させないよう黒色以外の服装で作業することをおすすめします。林業では、振動が少ない電動タイプの刈り払い機を推奨するようになってきました。

3 発生源対策

巣の自力駆除は非常に危険です。専門業者を役場に紹介してもらい、できるだけ早期に駆除してもらいます。

4 刺されてしまったら

刺されたらゆっくりとその場を離れ、刺された場所を指でつねって毒を出します。刺された時間を確認して患部を冷やし、アナフィラキシーショックによる全身症状に備え、救急車を呼ぶなどしてすぐに病院へ行くことをおすすめします。

5 翌春の対策

翌春の5～6月は、越冬した女王バチが新たに巣を作ろうとする期間で、女王バチを捕獲するチャンスです。実践している農場の事例をご紹介しますので、興味のある方は参考にしてください。

1.5～2リットのペットボトルを用意



図3 来春の女王バチ捕獲対策

- ・図のようにカッターとはさみで切り込みを入れる(円の直径は5～7 cm)。黒いテープを貼ってから切り込みを入れると入り口が黒くなり捕獲しやすい
- ・切り込みの中央を凹ませる
- ・酒などを混ぜた液体を、しょうごなどを使いペットボトルの1/5～1/4まで注ぎ込む
- ・日陰の木の枝に吊り下げる
- ・液体は2週間ごとに交換する
- ・捕獲したハチが死んだことを確認してから処分する。頭や胸を取り除いても刺されることがあるので取り扱いに十分注意する